

許 類

昭和49年 5 月22日

特許庁長官 殿

...3'

/ 発明の名称 7分分が20ドウタイセインのおり 置換酢酸読導体の製造法

遊兵部 敏統等体の製造法 ・発明者 アンかキンムユュタケッチ

兵庫県尼崎市武庫豊町2の5の53の303 ハッタ ヨシノリ 浜 田 書 徳 (ほか/名)

(/92) 塩野森製業株式会社 ポントン が オ 代表者 吉 利 一 雄

4.代 理 人 郵便番号 553

大阪市福島区常洲上2丁自47番地 塩野義製薬株式会社特許部(電話06~458~586/1

弁理士(6703) 岩 崎 光 生源付酵類の自録

n\* 3

(3) 類 # 副 ★49-05824.4

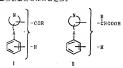
/通 初 所 5 /通 49 5.24 /通 股的一部 身份等

明 箱 書

## / 発明の名称

#### 置換酢酸 誘導体の製造法 2.特許無求の範囲

一般式 I で表わされる化合物にアルコキシメチ レン三炭化水素液量像フォスフォランを反応させ で得られる化合物を加水分解しついで酸化して一 飲式 I で表わされる化合物を得ることを特徴とす る電機能騰原体の緊急性。



(式中、 のはピリジン、ピリミジン、イミダゾール、テトラゾールまたはテアゾールを表わし、R は炭化水素基を表わし、Aは酸素、硫酸、イミノ 基または原化水素質像イミノ基を来わし、 の

-/-

## 19 日本国特許庁

# 公開特許公報

①特開昭 50-149668

43公開日 昭 50. (1975) 11, 29

②特願昭 *49-58244* ②出願自 昭*49*.(197*4*) 5.22

審査請求 未請求

庁内整理番号 *\$647 44 6762 44 7306 44 5647 44* 

⑩日本分類 /6 E35/ /6 E43/ 30 B4 (全8頁)

び上記ペンゼン間は反応に影響を及はさない!~ 3個の 賈勝諾を有していてもよくあるいは総合ペ ンゼン課または総合胆器を有していてもよく○000 法はこの総合ペンゼン潤上にあってもよい。但し しかがテップールでない場合は、よは酸素または能 変を表わす。1

#### 3発明の詳細な説明

本発明は置換節酸誘導体の製造法に関し、その 目的は優れた批炎症作用(抗りウマチ作用も含む) および鎮痛作用を示し医薬または動物薬として有 用な置換酢酸誘導体を得る点にある。

本発明方法の要旨は次式によつて示される。

- 2 -

(式中、されてリウン、ピリミウン、イミダゾール、テトラブールまたはテアゾールを扱わし、R は炭化水素素を表わし、A は糖素、研究、イミグ 必または炭化水素階段イミノ基を表わし、ごおよ 少上配ペンゼン酸は反応に影響を及ほうない。 のは異態を分していてもよくあるいは結合ペ ンゼン調または総合溶漏を有していてもよく、 - COB基はこの総合ペンゼン重上にあってもよい。 をは、ない、とはアルキル基を表わす。但し、「がチアゾールで ない場合は、A は糖業または観音を表わす。」 本発明方法は一般式「で表わされる化合物をア

本条明五法は一般式」で表わされる化合物をアルコキシメチレン三炭化水素圏換フオスフオランと反応させるいわゆるウィテイツヒ(Wittig)反応に付し(反応①)、得られる化合物量を加水分

- 3 -

反応させるのが通常実際的である。反応は主情不 所性気能中で行われる。得られる心合物目はつい、 で反応ゆすなわち加水分解反応に付し、アルコキ レメチレン基をアルデビド系にする。この加水分 解は通常エノールニーテルを加水分解する肌に用 いられる再級を用いることができる。のれば、 をして塩酸、硫酸、研酸またはこれらと行機動( の気は、郁酸)などとの配合物を用いることができ、塩香として水酸化アルカリ、炭酸アルカリな どが用いられ水あるいは合水溶媒の存在下加加 することにより実態される。生成する化合物別は 単数することなく久工程のに付すことができる。

反応の14位合物がのアルデにド基をカルボキレル基に変えるもので一般のアルデにド基をカルボキレル基に変換する酸化反応に早じて行えばよい。 卵えば湯ツェガン酸カリウム、遊除化水素、酸化 酸などにより水中または有機溶媒中で酸化しても よいし、胡酸、ウロム酸、前硫酸と過酸化鉛、ま たは温酸化酢酸などにより酸化してもよい。なお 上記反応の、回および30の工程において反応を考 上記反応の、回および30の工程において反応を考 特請 窓50-14968 (2) 解に付し化合物Nとした(及応②)後酸化反応に 付して目的とする置換酢酸誘導体』を得る(反応 ③)ものである。

次に本発明方法の実施について詳細に犯せる。 反応①は通常のウイティッヒ反応に従って行えば よく、種々のアルコキシメチレン三炭化水素置換 フオスフオラン(例えば、メトキシメチレントリ フエニルフオスフオラン、メトキシメチレントリ (メトキシメチル) フオスフオラン、エトキシメチ レントリプチルフオスプオランなど)が原料化合 物と反応条件に応じて適宜選択し使用される。例 えば、上記コオスコオランにハロゲン化水素が付 加したフォスフォニウム塩を使用し、有機金属( 例えば、フェニルリチウム、プチルリチウムなど) を用いてエーテル類(例えば、エーテル、ロビュ ルエーテル、テトラヒドロフランなど)中で必要 に応じて加龍下で化合物 | と反応させるか、ある いはアルカリ金属アルコキサイド(例えば、ナト りウムメチラート、ナトリウムエチラートなど) を用いアルコキサイドと対応するアルコール中で

ーダー ける類上の関換基は各反応の前後に置換基を修飾 することにより、最終において目的化合物を得る ようにすることができる。

かくして得られた化合物目はまられた分離、頻繁 あるいは繋削化、その他の必要に応じて、適当な アルカリ金属艦(例えば、カトリウム、カリウム など)、アルカリ土類金属塩(例えば、カルシウ ム、マグネシウム、バリウムなど)、その他アル ミニウム塩などに繋法に使って販験することがで ねる。

本発明方法の目的化合物である置換酢酸誘導体 及びその塩類は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作 用も含む)または鎮痛作用を示し、医薬または動 物薬として有用な化合物である。

以下実施例において本発明方法の実施機様を示す。

粉末にしたメトキシメチレントリフェニルフオ 双フオリウムクロライド23289をエーテル 280mに整備し、内線ノエ〜20℃アムノユコ

SE \$66 ARI /

特別 図50-149668(3)

をレフエニルリテクムエータル溶液をのがを落下 使 1 5 Tで 1 5 分間かきませる。 2 一フエ キン コニアマキルビリシンフ1 9 5 のエーテルの高速 リ 4 の がを 3 の分で滴下後薬温で 1 4 時間か高速 せる。 不満物を評去し消費化が水を注ぎエーテル で抽出する。 抽出液を水池、 配準機能を留立し 増減 1 7 6 4 3 4 を し りかでルからか 2 中で 1 に付 す。 ペンピン/ 舒敞エチルじ 5 の: 1 1 路出郷を 核圧蒸留すると 1mg temb 1 4 9 ペノ4 9 7 の 2 ーフェ ノ キシー3 - (1 7 チルーユーメトキンビニル ) ビリンシェ4 2 9 4 9 4 8

370(3H,8),6/2,633(3H,q)

、本品 4 4 6 9 を 2 3 塩酸 5 0 xl に加え、窒素気 能中一液かきませた後反応液にベンゼン 1 0 xl を ふれ婴素気殖中海マンガン酸カリウム 1 3 9 の水

- 7 -

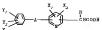
Ca(nH<sub>2</sub>O): カルシウム塩(n水和物を扱わす)
A &: アルミニウム塩 d:分解点
(以下余白)

器成3の4を20分で横下さらに築能で10分間
かきませた管不高物を产去し戸板を廃棄がようト
リウムで到3~9としてエーテルで相出する。相
板を35以降酸大素ナトリウム水階級で加出し
105個酸で四半とした後エーテルで用が細出する。 他は夜を55以降酸大素サトリウム水階級で加出し
105個酸で四半とした後エーテルで用が細出する。 他は夜を55以降し存候を留土する。 残然
610切をベンセン/石前エーテルで再動船する
とやまま~900002~(2つマンリャレーボー
4100万法により調覧された機品と同定された。

実態例 2 以下実施例  $\ell$  と同様にして下記の心合物を得る、以下実施例  $\ell$  と同様にして下記の心合物を得るなお、下記表中で用いられる略号は下記の意味をあわし、私機において例えばユー  $\ell$  はいっとなかし、  $\ell$  、  $\ell$ 

Me:メチル基 Met:メトキシ搭 取t:エチル基 isc-Bu:イソプチル基 Ac:アセチル基 An:アニリノ基 CH.-♥:シクロプロビルメチル基

-8-

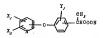


実施例	-CHCOOH の位置	R	- A -	x,	X,	Υ,	$\mathbf{Y}_2$	Y,	ub ( "C )
2	3	Но	5-0	н	н	H	Н	Н	135~1355
3	#	Мe	2 - 0	н	H	4-C£	н	H	119~120d
4	4	Me	2 — O	H	H	H	H	Н	98~99d
5	4	Me	2 - 0	H	H	2-C4	Н	н	107.5~108.50
. 6	#	Мe	z-0	H	Н	3-C£	H	H	84~85d
7	3	Me	2-0	H	H	4-C€	H	H	110~111
8	3	Мe	2-0	н	H	H	H	H	74~95
9	3	Мe	6-0	H	H	4-C€	H	н	114~115
10	2	Me	4-0	H	H	H	H	H	Ca(2H <sub>2</sub> 0)/35~/36
11	2	Me	6 - 0	H	н	4-Cℓ	H	H	Ca(2H20)80~8/d
12	#	Мe	2-S	H	H	4-C£	H	H	A864~65
13	#	Me	2-0	H	H	<b>⊬</b> Met	H	H	129~130d
14	4	Me	2 - 0	H	H	4-Me	H	Н	101~102d
15	3	Мө	4 - S	H	H	H	H	Н	1145~1155
16	3	Мо	6 - 0	H	H	<b>4-M</b> o	H	H	98~99
17	#	Me	2-8	H	H	H	H	H	Ca(%H <sub>2</sub> O)/40~/4/
18	3	Ме	$\delta - 0$	H	H	4-Met	H	H	Ca(/H20)/55
19	#	Et	2 - 0	H	Ħ	4-CE	H	Ħ	92~93
20	3	Me	6 - 0	H	H	3-C£	H	H	106~107
21	#	Мe	z - 0	H	H	4-CN	H	H	105~106d
22	3	Et	$\mathbf{e} - \mathbf{e}$	H	H	4-C£	H	н	A & 2 3 6
23	4	Мe	2 - 0	H	H	4-COOH	Н.	H	154~156d
24	4	Me	2 - 0	H	H	3 CF	H	н	Ca(2H20)/55~/57
25	3	Ме	z - s	H	H	4-C8	H	H	Ca(H <sub>2</sub> O)/50
26	4	Me	z - 0	H	H	4-CONH,	H	H	160~162 (発担)
27	#	Me	2 - 0	H	H	#-OH	H	H	Ca(#H20)/87~/89
28	4	Мe	z - 0	H	H	#-QAc	H	H	Ca(ZH <sub>2</sub> O) /325~/335
29	3	Me	é – 0	H	H	#-OAc	H	H	Ca(#H <sub>2</sub> O)/#5
30	3	Ме	4-0	H	H	4-0H	Н	H	Ca(H20)205
3 /	4	Мe	z - 0	H	H	4-NO 2	Н	H	115~116d
32	4.	Ме	2 - 0	H	H	4-NH <sub>2</sub>	H	H	132~133d
33	4	Me	2-0	H	Н	4-NHAc	H	H	142~143d
34	4	Me	2-0	н	н	#-NHCOOKt	н	н	136~137d

実施例 系	- GHCOOH の位置	В	- A ~	x,	Х,	Y,	Y,	Y,	ψ (°C) =
35	¥	Ме	2-0	н	н	4-NHCOAn	н	н	206~2084
36	3	Ме	6 0	H	H	#-Br	H	H	119~120
37	4.	Me	2-0	H	E	34-	ベング	H	138~139d
38	3	Mo	4 - 0	H	H	4CN	H	н	120~121
39	3	Me	é – 0	4- Mo	H	H	H	Н	135~136
40	3	Мe	4 0	2-Me	н	н	H	н	92~93
41	3	Mo	4 - O	H	H	2-Me	3-Me	Н	115~116
42	3	Me	6-0	H	H	2-C£	H	H	96~97
43	3	Мe	4-0	н	H	.2-Me	H	Н	65~67
44	3	Мe	4 - 0	н	H	3 Me	H	H	81~82
#5	3	Me	6-0	н	H	3-Me	5-Me	H	120~121
46	3	Мо	6 — O	н	H	3-Mo	<b>4-Me</b>	H	90~91
47	3	Me	<b>4</b> – 0	н	H	H	H	H	145~146
48	3	Ме	6-0	H	н .	#-iso-Bu	H	н	77~78
49	4	Мө	2 0	H	н	2-Me	3-Мө	н	86~87d
50	3	Иe	é – 0	5-Me	Н	H	Н	н	107~108
51	3	Mo	6-0	н	н	2 Me	s-Me	Н	Ca(2H20)/93d
5.2	3	Me	4 - D	H	H	2-Me	4-Me	н .	
53	3	Me	6-0	H	H	2-Me	6-Me	Н	Ca(/.5H,0)202d
5#	4	Иe	2 - 0	H	H	<i>3</i> -Me	4-Me	Н	123~124d
55	#	Мe	2 - 0	н	н	<i>3</i> −Me	5-Me	H	103~1040
56	3	Me	<u>6</u> – 0	н	H	.2-Me	3-Me	5-Me	128~129
57	3	Me	6 - 0	H	H	2-Me	4-Me	5-Me	113~114
58	3	Ме	6-0	н	H	.3−Me	∉-Me	5-Mo	155~156
59	3	Ме	4-0	н	H	2-Me	4-Me	6-Me	135~136
60	3	Мe	۵ – ۵	н	Н	34-(CH <sub>2</sub> )	u-	н	Ca(/SH,0)/69d
61	4	Мe	2-0	н	H		<i>3-</i> Me	s-Me	125~126d
62	4	Ме	2 - 0	н	H	3-Me	4-Me	5-M 0	126~127d
63	3	Ме	4-0	.H	H	23-(CH <sub>2</sub> )	<sub>4</sub> -	н	Cat (12H 20) / 62~/ 644
64	3	Мe	6 - 0	H	H	34		H	1205~1215
65	3	Me	6~0	н	H	23-0	ング	H	131~132
66	3	Ме	6 - 0	4-Me 5	Me	н	H	H	144~145
67	4	Мe	2-0	5.6-0	US	H	н	H	Cal /5H_012/6~2/7
68	3	Me :	6-0	4.5-	ベンナ	H	н	н	122~123
69	3	Мe	6-0	4.5 (	CH,)	- н	H	н	151~152
20	3	Me	<b>4</b> – 0	H		34-1 CH2)		н	1225~1235

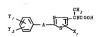
- / / -

実施例	R - CHCOOH の位置	R	<b>A</b> -	х,	X2	Υ,	Y,	Y	Ψ(°C)
21	3	Ме	6-0	Н	Н	3-Met	Н	н	695~705
72	3	Me	4-0	2-Me	4-Me	Ħ	H	Н	Ca(/5H,0)2/8d
73	3	Ma	4-0	H	H	<b>4-0</b> H	H	H	167~169
24	3	Me	6-0	H	H	4-Ac0	н	H	161~162



実施例 ※	х,	Х,	ブエノキシ <u>基</u> の位置	Υ,	R -CHCCOH の位置	Φ(°C)
75	Н	н	2	Н	3	76~77
76	H	Н	2	H	4	129~130
77	s-cn	н	2	н	4	198~200
28	5-00NH2	H	.2	н	4	2//~2/2
79	Н	н	3	н	#	130~131
80	H	н	4	H	4	180~181
81	34-11	CH <sub>2</sub> ) <sub>4</sub> -	2	H	4	166~167
82	3 4 - ~	ンゾ	2	H	#	145~147
83	3-Me	4-Ne	2	H	4	1555~156
84	4-Me	s-Me	2	н	#	142~143
85	4-Me	H	2	H	4	123~124
86	6-Me	H	2	H	4	Ca(H <sub>2</sub> O)273~275
87	3-Br	H	2	н	4	137~138
88	2-Me	H	<b>4</b>	H	4	152~153
89	5-Me	н	2	H	4	132~134
90	3-Me	H	2	H	4	121~122
91	H	H	2	2-Me	. 4	107~108
92	H	H	.2	2-Met	4	Ca(#H,0) /58d
93	*/	H	2	H	#	136~138

**Ж/** 5-СИСН<sub>3</sub>СООН



実態例	Υ,	Y_2	Ā	<b>x</b> , .	CHCOOH の位置	#\(*C)	
94	н	н	0	<b>4-M</b> e	5	110~111	1
95	2-Me	3-Me	0	4-Mo	5	142~143	
96	3-CF,	н	0	<i>4</i> -Ме	5	Ca(/5H,0)/06d	
97	≪-Me	H	0	4-Ne	5	//8, Ca(2.5H20) /46d	
98	4-C#	н	0	<b>4-</b> Ме	5	93~94. Ca(25H20)/33	
99	H	н	8	∉-Me	5	128~130	
100	н	н	0	н	5	Cal 15H, 0) 169~170d	
101	4-C£	н	0	н -	5	Ca(H <sub>2</sub> O)/#5d	
102	н	H	NH	4-Me	5	145d	
103	3-CF 3	н	NH	<b>4-Me</b>	5	195d	
104	н	н	0	H	#	Ca(25H20)/#2d	
105	н	H	0	5-Me	4	Ca(25H20)/#2d	
106	4-C&	н	0	н	4	Ca(25H20)/33~/35d	
107	#-C &	н	0	5-Me	4	Ca(25H20)/34~/36	
108	н	H	N-Me	H	4	79~80d	
109	н	н	N-Me	⊬-Me	5	141~142	
110	н	H	別―アリル	4-Me	5	106~107	
111	H	H	N-CH	¶ 4−Me	5	120~121	
//2	н	H	N-Me	H	5	198~200	
113	н	H	N-アリル	Ħ	5	134~135	
114	н	н	N-CH,-	1 н	#	Ca(3H20)/80~/83	
115	H	H	พ~ะบน	H	4	Ca(H <sub>2</sub> O)/20~/25d	
116	н	н	N-アリル	H	4	Ca(2H,0)/73~/78d	



実施例	х,	X,	A	٧,	R -CHOOOH の位置	R	40(°C)
117	н	н	0	н	4	Ме	119~120
118	4-Me	5-Me	0	н	4	Me	122~124
119	4-Me	H	0	H	4	Мө	87~88
120	н	H	0	2-Met	4	Me	Ca(H,O)/75d
121	н	н	0	H	4	アリル	Ca(H,O)/3#d
122	H	H	0	н	3	Me	88~89
123	н '	H	N-Me	H	4	Me	123~124
124	H	Ħ	N-アリル	н	4	Me	118~119
125	H	H	0	H	#	Et	115~116
126	H	H	0	н	4	ماوون	121~122
127	H	н	0	H	4	<b></b> 2	99~100
128	H	H	0	н	4	<b>*3</b>	111~112
129	H	н	0	H	4	-CH <sup>2</sup> 4	85~86
130	H	H	0	2-Me	4	Me	93~94

- / 4 -

#2 -CH<sub>2</sub>C≠CH

₩3 -CH,CCH,=CH,

実施例/3/~/34

実施側/と間様にして下記の化合物を得る。 ユー [ るー ( ユービリジルオキシ ) - ユーナフ

チルリプロピオン酸、や197~198℃。 2-[4-(1-フェニルー1234ーテトラ ゾリルオキシ)フエニル】プロピオン酸、即165 ~/6600

2-[4-(2-ピリミジルオキシ)フエニル) プロピオン酸、や174~175°C。

ユーじゅーリーメチルーユーベンズィラガイ イルオキシ)フェニルンプロピオン酸、卵/84 ~ 18500

特許出願人 塩野義製薬株式会社

4.前記以外の発明者

サカイシサンジョウドオリ 大飯 府堺 市三条 通 2 の 5 デッオ É



特許法第17条の2による補正の掲載 昭和 49 年特許顯第 58244 号(特開昭 50-149668 号 昭和50年11月29日 発行公開特許公報 50-1497 号掲載) につ いては特許法第17条の2による補正があったので 下記の通り掲載する。

庁内整理番号	日本分類
6762 44 7306 44 5647 44 5647 44	/6 E35/ /6 E43/ 30 B4 30 CO

特許庁長官 駁

人事件の表示 昭和49年特許願第 38244 号 2発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

3.補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 大阪府大阪市東区道修町3丁目/2番地

名称 ( / 9 2 ) 塩野義製業株式会社

4.代 理 人

住所 大阪市福島区鷺州5丁目/2番4号 塩野義製養株式会社特許部

- 5拒絶理由通知の日付

2-1

よ補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の棚

ム線正の内容

(1)明細書8頁//行目の「実施例2」を「実施 例2-/30 に訂正する。

(2)間書 / 2 頁実施例 8 7 の X 欄の「3 - B r 」 を「≤−Brlに訂正する。

(8)同書/5頁の実施例/3/~/34の次に下 記の実施例/35~/69を追加する。

「実施例/35~/69

実施例/と同様に反応操作し、下記の化合物を 得る。



(以下余白)

実施例	Υ,.	Y,	ab(_C)
135	2 - M e	H	150~151
136	3 - C &	H	98~99
137	2-01	н	145~146
138	3 - C &	5-06	127~128

実施例 <sup>彪</sup>	Y	*	ab (,C)
139	i-Pr	3	89~9/
140	Pr	3	8 1. 5 ~ 8 2. 5
141	t-Bu	3	1/2~//3
142	s-Bu	3	67~71
143	Bu	3	Ca ·H2O / 40~/42
144	i —Bu	3	Ca //4~//9(d)

プロピオン鯵殘基の簡準位置







	実施例	х	A	Υ,	Υ2	Ф(°C)
	145	Н	0	2-Me	H	120~121
	146	н	0	3-Cs	Н	115~116
	147	н	0	2-0€	н	86~87
	148	н	N-Me	3-C#	н	Ca:4H <sub>2</sub> O /75~/78
	149	н	S	н	н	85~87
	150	н	0	2-C£	<i>3</i> —Me	147~148
	151	H	0	3-F	н	107~108
ı	152	н	0	2-Mc	5-Ce	130~131
	153	н	NH	3-C#	Н	144~145
	154	4Me	NH	2-C#	H	185~188
	155	<b>4</b> –Me	NH	3-F	п	163~164
	156	<b>4</b> −Me	NH	.2-F	Ħ	202~204
١	157	H	NH	.2 F	н	190~1915
l	158	н	NH	3-C £	5-C4	177~178

159	4-Me	N-Me	3-Ce	5-C#	138~139
160	4∕-Me	NH	3-Ме	Н	201~202
161	н	N-Me	3-C£	5-C@	180~181
162	н	N-ме	2-F	н	1/1~//25
163	н	0	.2-F	H	74~75
164	Н	NH	3-F	H	160~161
165	п	N-Me	2-Me	H	165~166
166	н	N-Me	3-F	н	98~100
167	H	NH	2-C#	H	174~175
168	н	NH	2-Me	н	160~161.5
169	H	N-Me	2-0€	н	141~142

各表中の略号は以下の意味を支わす。 iーPr:イソプロピル基 Pr:プロピル基 t-Bs:iープチル基 iーBs:インプチル基 さ Bu:sec-ブチル基 iーBs:インプチル基 その他の略号は前記の 意味を支わす。

包上